

会議結果報告書

1. 会議名 令和3年度 第2回 印西市環境推進市民会議・事業者会議合同会議
2. 日時 令和3年7月29日(木) 9:30~12:00
3. 場所 市役所附属棟 23・24・25 会議室
4. 出席委員：岩井会長、川井委員、白川委員、関根委員、橋本委員、平林委員、福井委員、山崎委員、山田委員、吉村委員、渡辺委員、乾委員、三輪委員
事務局：環境保全課 飯島課長、海老原課長補佐、黒田保全係長、清田主任主事
5. 傍聴者 1名
6. 配布資料
 - ・資料1 第3次印西市環境基本計画素案(たたき台)
 - ・資料2 第3次印西市環境基本計画への意見対応一覧
 - ・資料3 印西市が目指す将来環境像(検討資料)
 - ・2020 印西市自然環境調査報告
7. 内容
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議 事
 - ①第3次印西市環境基本計画(素案「たたき台」)について
一事務局より、第3次印西市環境基本計画(素案「たたき台」)第1~3章について説明—
会 長：第3次印西市環境基本計画(素案「たたき台」)第1~3章の説明について、質問
やご意見などあればお願いします。また、事務局から、次期計画の将来環境像(案)
「みんなでつくる 自然と人々の暮らしが調和した 快適で優しいまち いん
ざい」など四案が示された。良いと思う案、もしくは、その他の案はあるか。
委 員：将来環境像のスローガンは広報いんざいに載るものとは違うのか。
事務局：広報いんざいに載っているスローガンは総合計画のものであり、今回検討してい
る将来環境像とは異なるものである。
会 長：私は、現行計画の「豊かで安心できる環境で暮らせるまち」という表現がないこ
とに違和感を覚える。現行計画のスローガンも良いと感じる。
事務局：新たな計画を立てる際は、新しいものを作るというのが通例となっており、今回
新たなスローガンの案をお示ししている。
委 員：「みんなでつくる」というところが新しい。市民団体など、みんなで作るとい
うのを入れるか入れないか。私は案①「みんなでつくる 自然と人々の暮らしが調
和した 快適で優しいまち いんざい」でいいと思う。
会 長：すぐに答えが出ないため、取りあえずこの場合は案①「みんなでつくる 自然と
人々の暮らしが調和した 快適で優しいまち いんざい」にすることとする。

- 委員：目次に資料編がないが、今回の計画でも資料編が入るということで良いか。昨年度市民会議で用語解説に追加して欲しいものなど検討した経緯もあるため、加えていただきたい。また、環境基本計画の中では環境白書の位置付けを説明しないのか。
- 事務局：資料編は本編の後ろに掲載予定である。また、環境白書の位置付けについては、本日お示ししていないが、第8章「計画の推進」で説明を予定している。
- 委員：26ページ「SDGsの概要」において、「環境へ直接的に関連しているSDGsのゴール」というタイトルは、ページの最後に示されているが、図の上部に移動してはどうか。
- 事務局：レイアウトを再度、検討させていただく。
- 委員：環境基本計画を必要に応じて見直すところがあるが、少なくとも5年に1回は数値を見直すことなどを検討してはどうか。
- 委員：4ページに印西市総合計画を踏まえて策定するとあり、総合計画が10年期間であるため環境基本計画も10年期間で良いと考える。
- 会長：総合計画の基本計画が5年ごとのため、その見直しに併せて環境基本計画も見直すなど、環境問題は国際的な動きにより変わるため、臨機応変に対応する必要がある。
- 事務局：総合計画の基本構想が10年期間であるため、視点を合わせるのであれば環境基本計画も10年期間になる。ただし、総合計画における基本計画は5年期間であり、他市の事例などを見ながら、検討していきたい。
- 委員：15ページ「今後の市の環境施策」は全て実行予定であるか。
- 会長：「今後の市の環境施策」はアンケート結果であり、例えば、市民は「ポイ捨てや不法投棄の抑止」を一番気にしていることが伺える。アンケート結果を踏まえて環境基本計画を検討するという事ではないか。
- 委員：4ページに「人づくり」とあるが、印西市は若い世代が増えており、自然に対する考え方が違ってきている。例えば、今の時期だと草深の森にカブトムシがいるが、クヌギの木の下が掘られてしまっている。若い世代に自然に対する考え方を勉強してもらうことが必要ではないか。
- 事務局：60ページには、「基本目標5 人づくり：パートナーシップを構築し、協働で環境保全に取り組むまちづくり」を掲げ、61ページ以降「環境学習の場と機会の創出」として、子どもたちへの学校教育だけでなく、大人に対しても、環境イベントや市民アカデミーなどによる勉強の機会を提供していく。また、63ページには、「個別目標2 環境配慮行動の実践の場と機会の充実」を掲げ、64ページ「各主体における環境配慮行動の推進」として、環境配慮行動に関する情報提供を行っていく。これらを通じて、市民の環境への配慮行動につなげたい。
- 委員：64ページに「環境保全団体における活動を支援」とあるが、具体的にはどのよ

うなことか。

事務局：更に具体的な内容については、各課の個別計画等で示している。

委員：4ページ「必要に応じて見直し」とあるが、例えば法改定や温暖化の政府方針など必要性に関して具体的に記載してはどうか。毎年の環境白書の進行管理の結果によっては、環境基本計画を見直し得るのではないか。また、次期計画は循環型社会、脱炭素社会とあるが、環境白書には「自然環境」「生活環境」「都市環境」「地球環境」「人づくり」であり、次期計画策定に伴って、環境白書も「循環型社会」、「脱炭素社会」となるか。4ページ「自然環境」「生活環境」「循環型社会」「脱炭素社会」「人づくり」は計画の「対象」となっているが、28ページでは計画の「目標」となっている。計画の対象と目標の棲み分けがしっくりこない。また、「人づくり」については「環境教育」としてはどうか。

事務局：毎年計画を見直すというのは難しいが、その他の意見も踏まえて再度検討させていただきたい。見せ方として、人づくりか環境教育がいいか、ご意見として賜りたい。4ページ「自然環境」「生活環境」「循環型社会」「脱炭素社会」「人づくり」を計画の対象として整理した上で、目標に掲げている。

委員：必要な場合にすぐ見直せるよう、あらかじめ予算を設けてはどうか。印西市の5つの目標の生活環境に「安心して快適なずっと住み続けたいと思えるまちづくり」と掲げているが、28ページ「基本目標2 生活環境」に「水・土壌環境の保全」に崖崩れに関する市の方針が示されておらず、残土しか触れられていないことを残念に思う。

会長：最近、静岡で不法投棄が関連した土砂崩れがあり、重要だと思う。

委員：7ページ「最終目標」の項目に「現状」以上とあるが「現状」とはいつか。また、現状以上という指標は定量値ではないため分かりづらい。

事務局：現状とは基準年度を示している。該当箇所は現行計画の表現であり、変更はできないが、次期計画の指標を検討する上でご意見として賜りたい。

委員：7-9ページに、顔の絵で評価しているが個別に表情から判断するしかないため、分かりづらいように感じる。良くないものは赤くするなど、一目で分かるようにしてはどうか。

事務局：視覚的な示し方も重要であるため、検討させていただく。

委員：30ページ指標の数値は都度、開示されるか。

事務局：指標は環境白書で毎年開示するが、今日明日の値を都度お示しすることは難しい。第4章の環境情報の提供に関する施策も踏まえて、どのように情報提供するかは今後、検討していきたい。

会長：第1～3章については以上とする。事務局に第3次印西市環境基本計画（素案「たたき台」）第4～5章の説明を依頼する。

—事務局より、第3次印西市環境基本計画（素案「たたき台」）第4～5章について説明—
会 長：第3次印西市環境基本計画（素案「たたき台」）第4～5章の説明について、質問
やご意見などあればお願いします。

委 員：空き家があると、火災リスクや、有害生物が住み着く、不法投棄につながるなど
の恐れがあるが、空き家対策に関する対策を記載してはどうか。

事務局：空き家対策に関しては、数年前に条例を制定し、それに基づいた計画を建築指導
課で策定しているため、そちらで扱う。扱う空き家問題も承知しており、空き家
対策法に基づいて「特定空き家」を数十か所指定して必要な措置を担当部局で実
施している。

委 員：第2章「国内外の動向を含めた環境情勢」、第4章の冒頭、あるいは第5条の重
点プロジェクトにグリーンインフラの考え方が盛り込まれており、国際情報を
踏まえた重要トピックに追隨されている印象を受けた。特に66ページ第5章「5-
2 重点プロジェクトの選定」の「①他分野・多方面との連携が求められる横断的
な事業で、本市における環境課題の総合的解決を図る」は、グリーンインフラの
考え方に即している。欧米では例えば豪雨による流出雨水を処理する仕組みづ
くりで下水道財源を使うなど、単に公園緑地系の財源に限定されない。分野横断
の可能性が66ページに示されていると思う。

委 員：51ページ「3R（リデュース・リユース・リサイクル）」に不要なものをもらわな
いリフューズを加えて4Rとしてはどうか。

会 長：3R、それから4R、5Rといろいろあり、プラスチックリサイクルにはリニューア
ルを入れる場合がある。断る行為がリデュースに含まれているという見解もあり
そのままでよいと思う。

事務局：4Rのほか、リペアを入れた5Rもある。どれも非常に重要だと認識したうえで、
適切な計画のタイトルの見せ方を考えていきたい。現段階では、3Rで進めたい。

委 員：54ページ「基本目標4 省エネルギーの推進」の指標に「温室効果ガス排出量」
とあるが、これは市全体のものか。運輸部門や工場部門の排出量はこれ以上下げ
られない段階にあり、民生部門が非常に大きい。カーボンニュートラルを目指す
のであれば、民生部門・住宅でどれくらい排出されているかを細かく数値として
示してはどうか。

事務局：54ページの指標「温室効果ガス排出量」は市全域のものを想定している。民生
部門が多いことは認識しており、ふさわしい指標の基準値、目標値については、
いただいた意見、各課の状況を踏まえながら、検証させていただきたい。

委 員：建築物省エネ法に基づき、建物の省エネルギー性能を表示するBELS（Building-
Housing Energy-efficiency Labeling System）という制度がある。市としても、
省エネルギー意識を高めるために、BELSを補助金の要件とするなど、活用を検討
してはどうか。また、現行計画には、放射性物質に関する記載があった。今回の

環境基本計画にも記載してはどうか。

会 長：放射性物質濃度は、ほとんど自然界と同程度に下がっている。ただ、集めて保管したものもあり、難しい問題がある。一番、放射性物質濃度が高いのは、燃やした後の灰だが、それ以外は過度に心配する必要はないと思う。

委 員：57 ページ「重点プロジェクト」は今まで挙げてきた計画で、ピックアップした最重要項目ということか。プロジェクトというと、具体的に何かをやるというものをイメージするが、非常に大きなコンセプトが示されているため、しっくりこない。また、現行計画の重点プロジェクトについても、第2章に総括を入れてはどうか。

事務局：重点プロジェクト原案は大きな概念で示しているが、細かくした方が良いなどのご意見があれば、お聞かせいただきたい。現状は、大きく分野横断別でコンセプトを示している。重点プロジェクトというより重点施策といった選び方が適切であれば、ご意見をいただきたい。総括に関しては、重点プロジェクトを掲げた以上は、それを評価できる仕組みづくりを併せて検討したい。

委 員：51-52 ページ「3R（リデュース、リユース、リサイクル）」の対象は一般廃棄物と産業廃棄物か。近年、8割が焼却され、年間約140万トンにおよぶ衣料廃棄物について問題提起されており、それらの9割は家庭から出ているということである。衣料廃棄物のリサイクルやリユースなどに関する指針を示してはどうか。

事務局：環境基本計画では一般廃棄物を対象としている。また、いただいたご意見も参考にさせていただきます。

委 員：42 ページ水質に関して、印西市は利根川の水を北総浄水場で浄化して一般家庭に水道水を提供しているが、北総浄水場は高度処理が導入されていない。環境保全課で、河川の水質モニタリングはされているか。また、高度処理を導入する河川の水質をどの程度として想定しているか。

事務局：担当は水道課になるため、確認させていただく。

会 長：印西市の場合、高度処理でなくてもきれいな水になるが、汚染が激しくなると、当然、高度処理を検討する必要がある。第4～5章については以上とする。

②自然環境調査の結果報告について

一事務局より、自然環境調査の結果について説明―

会 長：ただ今の自然環境調査の結果報告をもって本日の議事を全て終了とする。

(4) その他

事務局：次回会議は、現段階では9月15日の9時30分からを予定している。詳細が決まり次第、正式に通知する。また、追加意見等あればメール、ファックス、電話などで8月6日までにお寄せいただきたい。委員から何かあるか。

委員：前回お話をさせていただいた電磁波について、事務局の了承をいただき、「身の回りの機器の電磁波について」という資料を本日配布させていただいた。極力分かりやすい言葉で作成し、携帯電話を使うときの注意点などの記載がある。

事務局：本日不在の委員のご意見を配布している。委員の意見を踏まえて今後の計画作りを進める。その他に委員の皆さまから何か連絡事項あるか。

委員：8月21日に紙灯籠づくり鑑賞会を予定している。資料を配布した。

事務局：以上で令和3年度第2回印西市環境推進市民会議・事業者合同会議を終了する。

(5) 閉 会

以上

令和3年度第2回印西市環境推進市民会議・事業者会議合同会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和3年9月27日

環境推進市民会議 委員 白川 卓生

環境推進市民会議 委員 関根 正明